



むくの木

No.5

9月号

学校教育目標

- [知] 進んでできる子・考える子
- [徳] 心豊かな子
- [体] たくましい子



さあ、2学期も、笑顔・やる気・元気で！

校長 佐藤 貴広

この夏、以前から訪れたかった水郷のまち、千葉県佐原（さわら）に行ってきました。佐原は利根川水運の中継基地として栄えた場所で、今でも川沿いを中心に江戸情緒あふれる古い街並みが残っています。“小江戸さわら”と呼ばれているとおりの雰囲気がありました。

佐原とゆかりの深い人物に、日本で初めて実測日本地図をつくりあげた伊能忠敬（いのうただたか）がいます。佐原在住時代の家が今も残っていて、近くには「伊能忠敬記念館」があります。この記念館を見学することも訪れた目的の一つでした。

伊能忠敬は、江戸時代の人（1745～1818）で、50歳を過ぎてから日本全国を測量して歩き、日本で初めて実測日本地図をつくりあげました。佐原で酒造業などをしていた忠敬は50歳の時に江戸に出て、20歳ほど年下の高橋至時（たかはし よしとき）の弟子となり、本格的に天文学を学びます。そして55歳で北海道南岸の測量を行い、以後、10回に及ぶ日本全国の測量を71歳まで行いました。忠敬は73歳で亡くなりましたが、弟子たちによって3年後に日本全図が完成しました。

伊能忠敬の後半生は現代で言えば、定年退職した後にリスキリング（新しい知識と技術を学ぶこと）し、新たな事業を立ち上げ、誰も成し遂げなかった大事業を行った人と言えそうです。人は幾つになっても目標と情熱を持ち続ければ、何事かを成し遂げることができる、そう教えられたように感じました。また、師匠と弟子に年齢は関係なく、自分を導いてくれる人を師として、謙虚に学び続けた人生が素晴らしいと思いました。

ところで、忠敬とその弟子らが製作した地図には、幕府に提出した正本と控え用の副本がありました。しかし、正本は1873年（明治6年）に皇居の火災で、副本は1923年（大正12年）の関東大震災で消失してしまいました。今年が関東大震災からちょうど100年目の年です。その節目の年に伊能忠敬記念館を訪れ、先人の偉業に思いをはせるとともに、災害への備えについても改めて考える機会となりました。

本校では、関東大震災が発生した9月1日に地震発生を想定した「引き渡し訓練」を行います。また、防災週間中には埼玉県下一斉防災訓練の「シェイクアウト埼玉」への参加と避難訓練を行い、災害時の自助と共助の意識を高める防災訓練に取り組みます。

まだまだ暑い日が続きます。熱中症予防に十分気をつけながら、2学期が子供たちにとって充実したものとなり、笑顔・やる気・元気に過ごせるよう、教職員一丸となって教育活動を進めてまいります。保護者・地域の皆様には、今学期も変わらぬご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

参考：伊能忠敬記念館リーフレット